

MIRAI no KOE



【スペシャルトークセッション】 「みんなに聴こえやすい」 音のバリアフリー社会について①

MIRAI no KOE

2017年3月2日に開催されました「ミライスピーカー・カーヴィー」発売記念【音のバリアフリー体感イベント】で行われたトークセッション『「みんなに聴こえやすい」音のバリアフリー社会について』で語られた内容をご紹介します。

◆ 参加スピーカーのご紹介



快適で機能的な音環境を構築するための普及活動を行う、
一般社団法人スマートサウンドデザインソサエティ理事
藤澤孝史氏



タイバーシティに関する複数のプロジェクト開発に従事し、
ご自身も重度の難聴者である、株式会社電通 未来製造グループ/
電通ダイバーシティラボ チーフ・リサーチャー
阿佐見綾香氏



株式会社サウンドファン 代表取締役
佐藤 和則

【テーマ1:聞こえづらさにおける社会の現状】

（阿佐見さん）

私自身、「聞き取りやすさプロジェクト」というものに携わっていますが、そこでも、聞き取りに課題のある難聴の方と話をしますと、軽度～中度の難聴の方に対する配慮が世の中にほとんどない、ということをごさ実感されています。

例えば、駅の放送は聞こえないので「電車が遅延した際、「なんでなのか？」は、私にはわかりません。また、舞台の鑑賞にセミナー・講演会場のマイクが聞こえづらいといったこともあります。病院でも先生が診察室から出てきて呼びに来るまで気がつかないということもあります。お店でも、会話がしやすい、しづらいお店がありますし、会議室も反響して聞こえづらいなど、聞きとりづらいシーンが日常的に多々あります。

でも、聞こえにくくてもコミュニケーションとりたいし、舞台や演劇も見に行きたい！

商品・試聴等に関するお問い合わせ先



SoundFun!

“音”で世界の人を幸せにする！
株式会社 サウンドファン

東京都台東区浅草橋1-32-6コスモス浅草橋酒井ビル4F <http://soundfun.co.jp>
TEL:03-5825-4749 FAX:03-5825-4794 e-mail:info@soundfun.co.jp

MIRAI no KOE

(藤沢さん)

音の環境が目立たないのは、音もつ説明しづらい特性があるからなのではと考えます。

例えば、自分がプレステーションの音の開発を行っている時、38インチのテレビで楽しむのか、すごいスピーカーシステムで聞くのか、どんな環境でお客様が聞くのか千差万別で、開発者はわかりません。

また、プレステーションは日本でワールドワイドに展開する予定でしたので、どの国の人々が聞かかもわからないという面もあります。

同じ意味を伝えることが音のデザイン。聞く人にとって、どのように音が聴こえるのか、どんな印象をもつのか、かわらないながら留意して、音をつくりました。



スマートサウンドデザインソサエティでは、音環境を仕分けして考えましょう、ということで

1)音源 2)デバイス 3)再生環境

この3つで聞こえやすさについて研究をはじめています。

ミライスピーカーは、2)デバイスのひとつですね。

(佐藤)

この事業に携わる前から、音楽は好きでしたが、音とかスピーカーを意識したことはありませんでした。でも、よく音の環境について意識してみると、「聞こえづらい」シーンが多くありますね。音が出ていればいい、といった環境のところをよく目にしますね。

その一方で、世の中には、聞こえの問題に困っている人が(日本人の)約9人に1人いるのです。

片耳難聴の方は、会社などでは隠している方も多く、身近に多くいらっしやると思います。

さらに、健聴者にとっても聞こえづらい環境って多くありますよね。

そんな環境を、我々は改善していきたいと考えています。

【テーマ2:望ましい音の環境とは】

(藤沢さん)

私たちの音の研究では、阿佐見さんに色々な音を聞いてもらって、データをとりながら、「聞こえやすさ」について定義化しようとしています。しかし、「聞こえ」について”モノサシひとつ”では測りきれないものです。みんながちゃんと聴こえるような音だったり、再生装置だったり、1歩1歩やっていけたらと思っています。

しかし、全員に同じ「聞こえ」は少々欲張りすぎな気がします。より多くの人が快適になればいいのではないのでしょうか。

ミライスピーカーを紹介していただいた際、「よくわからないけどよく聴こえるんですよ」と紹介されたんですよ。確かに、ミライスピーカーは、前後左右どこに回り込んでも音像が変わらないんです。会議室の横の小部屋に入っても、音の伝わり方が変わらない…、どこにいても変わらない感じはなんでだろう…それがミライスピーカーの可能性なのでは？と感じました。





(佐藤)

ミラリスピーカーを現状の環境にアドオンすることで、「聴こえやすい」環境ができると考えています。

この仕事をしてわかったんですが、まったく聞こえない方、重度難聴の方、そして中度難聴の方、軽度難聴の方、老人性難聴の方、皆さんニーズが異なるんですね。

ミラリスピーカーで、テレビが聴こえるのも嬉しいですが、皆さん人の声をきいてコミュニケーションをとりたいというのが、本当のニーズなんです。

よって、ミラリスピーカーは公共用として活躍が期待されています。ミラリスピーカーは、お一人お一人の聴こえをサポートする補聴器とはなりえないので、学校・職場・コンビニ・映画館・病院・・・多くの方が集まるところで、公共用バリアフリースピーカーとして活躍できればいいなと思っています。

(阿佐見さん)

(難聴者のサポートは)文字に頼りがちですね。でも、本当は、音を音のままに解決できた方が理想的だと思います。

補聴器とミラリスピーカーを家で使っています。そうすると、耳に入ってくる情報量が、全然違うと感じています。以前は、ニュース番組などは、字幕がおいつかないので、あまり見なかったのですが、(ミラリスピーカーを使うようになって)普通に耳から音の情報が入ってくるようになって嬉しく思っています。また、多くの言葉を文章で覚えているので、読み方を間違えて覚えている言葉もあったのです。しかし、ミラリスピーカーからの音により、音源に意識を集中させなくても耳に音が入ってくる体験をして、改めて「こうやって言葉を覚える体験ってあるんだ」とはじめて気がつきました。また、漫才とかも字幕ですと、先にオチが見えてしまいますのでつまらないので見ていなかったのですが、ミラリスピーカーを使うことで、字幕なしでも楽しめるようになり、面白さがわかりました。今では、お笑い芸人さんの名前がわかってきたことも、私の中では変化です。

母も老人性難聴で、音量を下げても単語の意味がわかるかといっています。父は健聴者ですが、音が立体的に聴こえるかといっています。夫も健聴者ですが、単語の輪郭がはっきりしていて、二次元から三次元になった感じ、と表現しています。

音を音のままに解決できることが広がっていくといいと思います。



※2017年3月2日開催「ミラリスピーカー・カーヴィー」発売記念【音のバリアフリー体感イベント】トークセッションの内容より抜粋し、文章として読みやすいように編集いたしました。